

平成30年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 総合科学部（総合科学科） 〕

プログラムの名称（和文）	総合科学プログラム
（英文）	Integrated Arts and Sciences
1. 取得できる学位 学士（総合科学）	
<p>2. 概要</p> <p>総合科学科では、学際性、総合性、創造性を基本理念とした「総合科学プログラム」を提供しています。本プログラムでは、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）（後述）を実現するために、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（後述）に示す教育内容の実践を目指しており、教養教育と専門教育を連続的かつ一体的に捉えていることに特徴があります。</p> <p>1年次には、教養教育科目とともに、本プログラムの専門教育科目である「総合科学へのいざない」「総合科学概論」を履修し、総合科学的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探究の基本姿勢を育みます。</p> <p>また、学問を体系的に学ぶために、3つの「教育領域（人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域）」が、またそれぞれの教育領域内には「授業科目群」が設置されています。教育領域および授業科目群は独立したのではなく、相互に関連する総合科学学術ネットワーク（添付図参照）を構成しています。</p> <p>学生は2年次に1つの教育領域を選択し、その教育領域内の授業科目群を中心に学習を進め専門性を深めます。同時に、他の教育領域の授業科目も履修することで、学際的・総合的な知識や方法論、視座を修得します。</p> <p>授業科目群選択の自由度は大きく、学際性・総合性に重点を置くこともできれば、専門性に重点を置くこともできます。教育領域内の授業科目群とは別に、「学際科目」「専門外国語科目」および「総合科学部共通科目」があります。学際科目では、自分が学んでいる専門領域がどのような学際的研究テーマに発展し得るのかを学びます。「専門外国語科目」では、専門的外国語運用能力を高めます。また、総合科学部共通科目では、社会の諸問題を総合的に考える上で基礎となる様々な学問分野の基礎的な知識や方法論を国際共創学科の学生とともに学びます。卒業後は、本プログラムで修得した総合的知見と思考力をセールス・ポイントに、多様な分野で活躍できる人材として、実社会あるいは大学院へ送り出します。また、本プログラムでは、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、数学、理科、外国語（英語））を取得しようとする者にも配慮が施されています。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）</p> <p>総合科学プログラムでは、学際性、総合性、創造性を基本理念とし、高度教養教育を旨とする専門教育を行い、総合的知見と思考力を持つ、自主的・自律的な人材を養成します。</p> <p>本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める単位数を修得した学生に「学士（総合科学）」の学位を授与します。</p> <p>1. 複数の学問分野にまたがる学際的な領域に対する関心を基盤に、3つの教育領域（人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域）での学修を通して、現代社会の諸問題への対応をリードすることができる。</p>	

2. 深い思考と独創的な視点，豊かな想像力を基盤に，3つの教育領域の枠組みを超えた，新しい学問分野の創造を目指すことができる。
3. 学際的な学修によって，専門分野にとらわれることなく，常に活発な学問的関心を抱き，総合的な視点から新しい状況や環境に対応できる。
4. グローバルな視点から，異文化・異領域への共感と理解を深めると同時に，自己の見解を説得的に主張することにより，地域社会や国際社会で活躍できる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

総合科学プログラムが掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために，以下の教育課程を編成し，実践します。

1. 教養教育では，平和を希求し，幅広く深い教養と総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養することを目指すことに加え，「広く学問への関心を高め，ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力の素地を培う」場であると位置づけ，実用的外国語運用能力，国際的視野や異文化理解能力，情報活用能力やコミュニケーション能力を養成します。
2. 教養教育と並行して，1年次前期の専門必修科目「総合科学へのいざない」では，複雑な現代社会の諸問題への総合科学的アプローチについて，細分化する学問の歴史と現状，総合科学への期待と課題，総合科学部の歩みに関する講義と学生間での討論などから理解を深めます。続く，1年次後期の専門必修科目「総合科学概論」では，3つの教育領域（人間探究領域，自然探究領域，社会探究領域）と各教育領域内の4つの授業科目群の概要の理解に加え，PBL（問題発見解決型学習）やグループ発表会でのプレゼンテーションを通して，総合科学の実践についての理解を深めます。
3. 2年次には，3つの教育領域の中から学生自身の希望に応じて，1つの教育領域およびその教育領域内の4つの授業科目群から主たる授業科目群を選択して学修を進め，専門性を深めるとともに，自由度の高い履修制度を利用して他教育領域の授業科目を履修することで，学際的・総合的な知識や方法論，視座の修得を目指します。また，総合科学科と国際共創学科の学生が共通で履修できる「総合科学部共通科目」では，様々な学問分野の基礎的な知識や方法論を学ぶことを目的とし，人間科学・社会科学・自然科学の3つの分野で開講される科目を履修することで，バランスのとれた知識を修得します。
4. 高学年次には，教育領域内の授業科目群とは別に，「学際科目」として，教育領域横断型の学際的研究を紹介する講義，新たな学際的テーマの構築を目指す演習，学際的方法を学ぶ実験・演習などを履修し，学際的研究の実現可能性への理解を育みつつ，科学リテラシーや研究倫理の知識を深め，具体的に総合科学へのチャレンジを促します。加えて，「専門外国語科目」として，グローバルな視野から，研究発表や国際交流の場で求められる実践的外国語運用能力をさらに高める演習科目の履修を可能とし，総合科学の手法の理解を深めます。
5. 4年次には，学生が所属する教育領域の主指導教員と2名の副指導教員の指導の下，学士課程における学修の集大成として，学生が主体となり独創的な視点から研究テーマを設定して，特別研究論文（卒業論文）を作成します。
6. 学修の成果は，各科目の成績評価と共に総合科学プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラムは、入学とともに開始されます。総合科学科では、前期日程の入学試験では、文科系科目と理科系科目に分かれて選抜しますが、どちらの科目で入学しても、入学後の単位の修得および教育領域選択に、影響はありません。教養教育科目履修にあたっては、自分の学習内容の方向性をみすえた履修計画を立案することを、学生ひとりひとりに強く望みます。

6. 取得可能な資格

高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、数学、理科、外国語（英語））

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

1) 特別研究の着手の条件

3年次後期終了時点で、「総合科学へのいざない」及び「総合科学概論」を含む約100単位以上（教職に関する科目、インターンシップ及び同和教育の授業科目を除く。）を修得している必要があります。

2) 指導教員の決定方法と決定時期

- ・ 指導教員は、主指導教員と副指導教員（複数名）からなります。
- ・ 学生は、原則として自分が選択した教育領域に所属している教員の中から（別紙5参照）、主指導教員を選びます。
- ・ 学生は、主指導教員を決定するために、3年次の7月～10月に所属する教育領域の中で、主指導教員を希望する教員を複数名訪問した上で、「特別研究指導教員決定に係る面談報告書」を作成し、チューターに提出します。
- ・ 学生は、面談報告書に基づき、3年次チューターと相談の上、「特別研究主指導教員希望届」を作成し、11月15日までに、学生支援グループに提出します。12月26日までに主指導教員決定通知を掲示にて発表します。主指導教員を変更する場合は、3年次の2月10日までに「特別研究主指導教員変更希望届」を総合科学研究科支援室（学士課程担当）に提出します。

3) 特別研究開始時期

- ・ 原則として、指導教員決定後に研究に着手します。
- ・ 学生が希望すれば、3年次の8月1日以降に仮指導教員を決定し、早期に研究に着手することができます。なお、そのためには、2年次後期終了時に約80単位以上修得している必要があります。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

- ・ 学部教務委員会を設置し、ここで学士教育の実施・評価を行います。
- ・ 教育領域の総括責任者は、学部教務委員長であり、副委員長がこれを補佐します。
- ・ 学部教務委員長および副委員長が、プログラム実施における責任を負います。

- ・ 学部教務委員会内に履修指導小委員会を設置し、学生からの履修相談およびチューターとの連携を図ります。
- ・ 教育領域ごとに領域別履修指導会議を設け、具体的な履修指導や履修上の調整を行います。
- ・ 評価と改善については、学部長が総責任を担います。

(2) プログラムの評価

1) プログラム評価の観点

- ・ 授業科目は目的達成のために体系的に適切に配置されているか。
- ・ 授業内容は体系化の中で適切なものであるか。
- ・ 学生は一定基準以上の目標を達成しているといえるか。

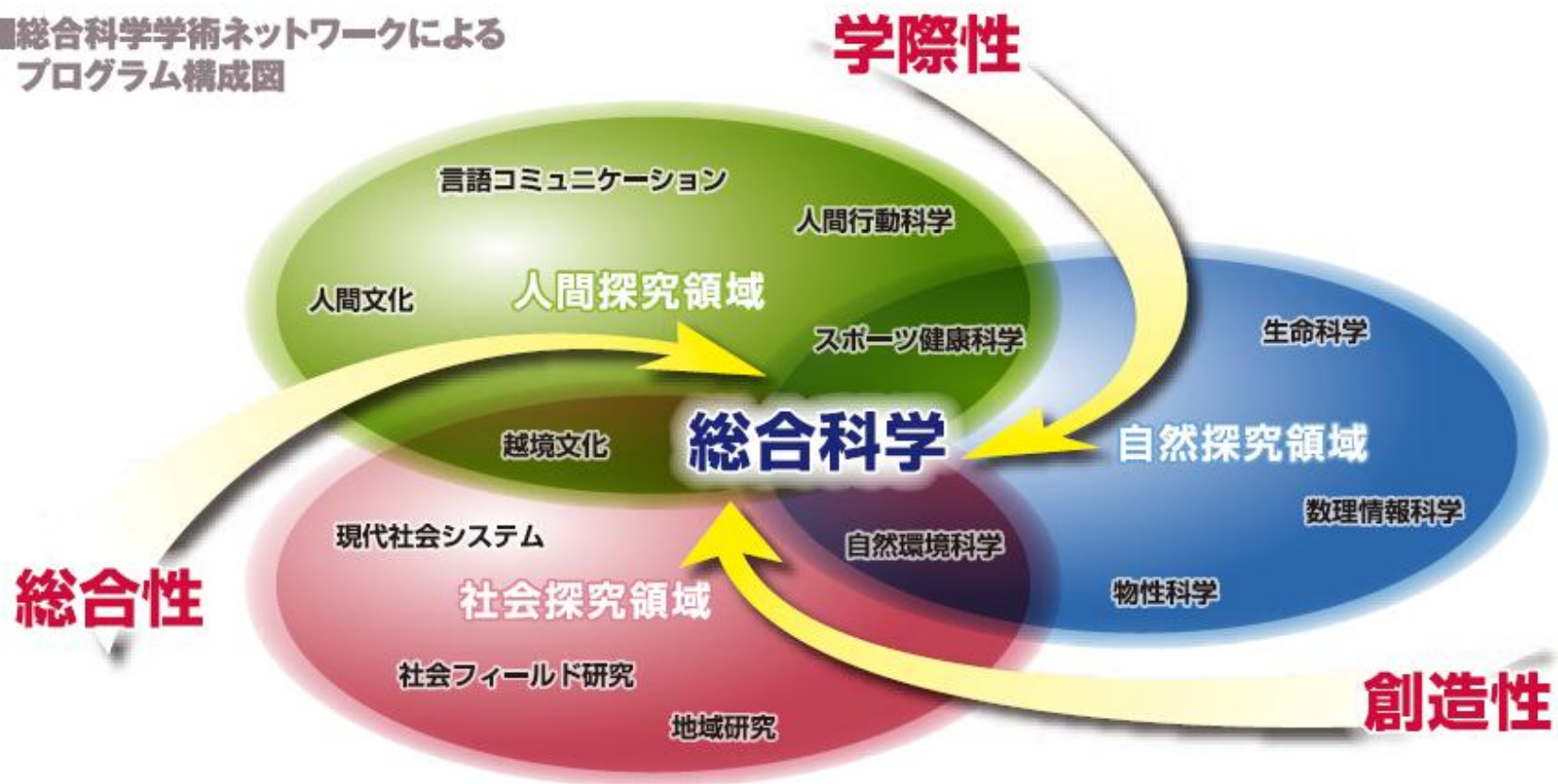
2) 評価の実施方法

- ・ 各セメスターの最終授業終了後、履修学生にアンケートによる授業評価を行います。

3) 学生へのフィードバックの考え方とその方法

- ・ 個々の授業評価に関しては、教員の意見と評価結果を総合科学科の教育領域内で検討し、改善に努めます。
- ・ プログラム全体の評価に関しては、学部教務委員会、研究科長室および評価委員会が連携して評価を行います。

■総合科学学術ネットワークによる
プログラム構成図



別表1 (総合科学部細則5条第3項)

卒業のために必要な授業科目及び単位については下表のとおりです。注1～11も含めて必ず確認の上、履修を進めてください。

区分	科目区分等	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)			
教養 教育 科目	平和科目	2		2	選択必修	「1」			
	基礎 大学 教育 科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	「1」		
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	「1」		
	領域 科目	人文社会科学系科目群	4	(注3)	1又は2	選択必修	「1」		
		自然科学系科目群	4						
		人文社会科学系科目群及び自然科学系科目群(以下、人文社会・自然科目群)	20						
	共通 科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	「1」	
			コミュニケーション基礎Ⅱ		コミュニケーション基礎Ⅱ	1		「1」	
		外国 語 科目	英語 (注2)	コミュニケーションⅠ	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	「1」
				コミュニケーションⅡ		コミュニケーションⅡA	1		
				コミュニケーションⅢ		コミュニケーションⅢB	1		「2」
						コミュニケーションⅢC	1		
			外国 語 科目	初修外国語 ベーシック外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語、中国語、韓国語のうちから1言語を選択)	4	ベーシック外国語Ⅰ から2科目	1	選択必修	「1」
				インテンシブ外国語	(0)	ベーシック外国語Ⅱ から2科目	1		「1」
		外国 語 科目	海外語学演習	(0)	領域科目(人文社会・自然科目群)に算入することができる	1	自由選択	「1」	
			情報科目	(0)	領域科目(人文社会・自然科目群)に算入することができる	1～4	自由選択	「1」	
	健康スポーツ科目		2	2単位まで領域科目(人文社会・自然科目群)に算入することができる(注4)	2	自由選択	「1」		
	社会連携科目		(0)		1又は2	選択必修	「1」		
	基礎 科目		6	2単位まで領域科目(人文社会・自然科目群)に算入することができる	1, 2 又は4	自由選択	「1」		
				6単位を超えて修得した場合は領域科目(人文社会・自然科目群)に算入することができる(注3)(注5)	1又は2	選択必修	「1」		
	専門 教育 科目 (注7)		76	総合科学へのいざない	2	必修	「1」		
				総合科学概論	2	必修	「1」		
				学際科目(注7)	1又は2	選択必修	『1』		
専門外国語科目(注7)				2	『2』				
教育領域科目(注8)(注9)				1又は2	選択必修	『2』			
総合科学部共通科目から6単位以上(注10)				1	選択必修	『2』			
自由選択科目(注9)(注11)				1～	自由選択	『1』			
特別研究	6	必修	「4」						
卒業要件単位数		128							

- 注1 「」中の数字は、標準履修開始年次を表している。なお、当該履修年次で単位を修得できなかった場合、これ以降に履修することも可能である。また、『』中の数字は履修開始年次を表しており、これ以降に開講される授業を履修することができる。
- 注2 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」、自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」又は「コミュニケーション上級英語」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生ハンドブックの教養教育の英語に関する項、「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」及び「外国の研修機関における語学研修の単位認定に関する申合せ」を参照のこと。
- 注3 領域科目及び基盤科目については、2年次から配属される専門教育領域にかかわらず、領域科目の各領域及び基盤科目から文系科目、理系科目を問わずバランスよく履修することが望ましい。
- 注4 「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合のみ、「情報活用演習」を履修することができる。
- 注5 (1)「微分積分通論」は高等学校で数学Ⅲに相当する科目を修得していない者のみ選択できる。
(2)「初修化学」は高等学校で化学(化学基礎を含まない)に相当する科目を修得していない者のみ選択できる。
- 注6 「教職に関する科目」、「インターンシップ」及び「副専攻プログラムとして修得した科目」は、卒業要件単位に算入されない。
- 注7 学際科目又は専門外国語科目について、合わせて2単位を超えて修得した場合は、自由選択科目に算入することができる。
- 注8 (1)教育領域科目の履修にあたっては、3つの教育領域(人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域)の中から、重点的に学習したい教育領域を1つ選択して登録するものとする。
(2)登録した教育領域の中で重点的に学習したい授業科目群を1つ選び、それを主授業科目群とする。
(3)教育領域科目の48単位は、全ての教育領域の授業科目群(以下「全授業科目群」という。)において開講されている授業の中から修得すること。その際、主授業科目群以外の全授業科目群から、合計で12単位以上修得することが必要である。
(4)教育領域科目の単位数については、最終年次における最終的な修得結果において、以下の順で自由選択科目に算入する。
①主授業科目群の単位数を超えた、その他の各授業科目群の単位数
②48単位を超えて修得した全教育領域科目の単位数
- 注9 教育領域科目か自由選択科目のいずれかにおいて、登録した教育領域以外で開講される授業(授業科目群に提供されているものに限る)を6単位以上含まなければならない。
- 注10 総合科学部共通科目は、英語又は日本語で開講される。同一科目名で日本語と英語それぞれで開講される科目は、いずれか一方の単位しか認められない。また、人間科学分野・社会科学分野・自然科学分野の3分野からそれぞれ2単位ずつ合計6単位を修得すること。なお、卒業要件単位分の6単位を超えて修得した場合は、自由選択科目に算入することができる。
- 注11 他学部等の授業科目を含むことができる。

総合科学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準			
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)	
知識・理解	(1) 当該の個別学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みへの知識・理解	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について体系的に十分理解し、説明できる。	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について理解し、説明できる。	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について概ね理解できる。	
	(2) 異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化への知識・理解	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について十分理解し、適切に受発信できる。	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について十分理解し、受発信できる。	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について理解し、概ね受発信できる。	
	(3) 個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を認識するうえでの必要な知識・理解	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を十分理解・認識し、適切に説明できる。	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を十分理解・認識し、説明できる。	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を理解・認識し、概ね説明できる。	
能力・技能	(1) 個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを十分収集し、的確に解析することができる。	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを十分収集し、解析することができる。	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集し、概ね解析することができる。	
	(2) 課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能	課題の考察のために必要な理論・方法を的確に特定し、それを十分活用できる。	課題の考察のために必要な理論・方法を的確に特定し、それを活用できる。	課題の考察のために必要な理論・方法を特定し、それを概ね活用できる。	
	(3) 自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも的確に回答できる。	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも回答できる。	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも概ね回答できる。	
総合的な力	(1) 研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を発見し、解決に向けた方策を立案できる総合的な能力	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を率先して発見し、解決に向けた有効な方策を立案できる。	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を率先して発見し、解決に向けた方策を立案できる。	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を発見し、解決に向けた方策を概ね立案できる。	
	(2) 柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を組合せ、主体的に研究する能力	柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を有効に発揮することができる。	柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を発揮することができる。	概ね柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を概ね発揮することができる。	
	(3) 課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で指導力を発揮できる総合的な能力	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で十分指導力を発揮できる。	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で指導力を発揮できる。	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを説明し、討論の中で概ね指導力を発揮できる。	

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

総合科学プログラムでは、教養教育を「専門に直結する基礎知識・技術を習得する」だけではなく、「広く学問への関心を高め、ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力の素地を培う」場であると位置づけています。習得すべき具体的な学習内容は、以下のとおりです。

- ・豊かな感受性・柔軟な発想, 平和に関する多角的観点からの理解, 分野間の相互関係の理解 など
- ↓
- 視野を広げる, 視点をかえる
- ・基礎知識の獲得, 語学力の習得, 情報活用能力の習得, 体力・健康についての理解 など
- ↓
- 学びの土台をつくる

総合科学プログラムカリキュラムマップ

※各授業科目の位置づけは別紙3を参照

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	当該の個別学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みへの知識・理解	○平和科目	○平和科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
		○大学教育入門	○領域科目						
		○領域科目	○健康スポーツ科目						
		○健康スポーツ科目	○基盤科目						
		○基盤科目							
	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化への知識・理解	○平和科目	○平和科目	○外国語科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
		○外国語科目	○外国語科目	○専門科目					
		○領域科目	○領域科目						
		○基盤科目	○基盤科目						
	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を認識するうえでの必要な知識・理解	◎総合科学へのいざない	◎総合科学概論	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
		○平和科目	○平和科目						
		○大学教育入門	○領域科目						
○領域科目		○基盤科目							
○基盤科目									
能力・技能	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能	○情報科目		○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能	◎教養ゼミ		○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能	◎総合科学へのいざない	◎総合科学概論	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
		◎教養ゼミ						◎特別研究	◎特別研究
総合的な力	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を発見し、解決に向けた方策を立案できる総合的な能力			○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	
								◎特別研究	◎特別研究
	柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を組合せ、主体的に研究する能力		◎総合科学概論	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
					○学際科目	○学際科目	○学際科目	○学際科目	○学際科目
	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で指導力を発揮できる総合的な能力		△専門外国語科目	△専門外国語科目	△専門外国語科目	△専門外国語科目	△専門外国語科目	△専門外国語科目	△専門外国語科目
				○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

総合科学プログラム担当教員リスト

平成30年4月1日現在

人間探究領域		自然探究領域		社会探究領域	
授業科目群	氏名	授業科目群	氏名	授業科目群	氏名
人間文化	青木 孝夫	生命科学	石田 敦彦	地域研究	荒見 泰史
人間文化	桑島 秀樹	生命科学	浮穴 和義	地域研究	田中 暁
人間文化	大島 徹也	生命科学	斎藤祐見子	地域研究	長田 浩彰
人間文化	杉木 恒彦	生命科学	古川 康雄	地域研究	丸田 孝志
人間文化	眞嶋 俊造	生命科学	山崎 岳	地域研究	水羽 信男
人間文化	宮園 健吾	生命科学	佐藤 明子	地域研究	薩摩 真介
人間文化	河合 信晴	生命科学	根平 達夫	地域研究	シュラルプ ハンス ミハエル
言語コミュニケーション	井口 容子	生命科学	彦坂 暁	地域研究	崔 真碩
言語コミュニケーション	井上 永幸	生命科学	石原 康宏	地域研究	柳瀬 善治
言語コミュニケーション	スケアー ビーター マンコール	生命科学	小林 勇喜	地域研究	李 郁恵
言語コミュニケーション	吉田 光演	生命科学	平野 哲男	地域研究	渡邊 誠
言語コミュニケーション	廬 濤	数理情報科学	阿賀岡芳夫	地域研究	春日 あゆか
言語コミュニケーション	石川 雅隆	数理情報科学	阿部 誠	越境文化	青木 利夫
言語コミュニケーション	大嶋 広美	数理情報科学	水町 徹	越境文化	市橋 勝
言語コミュニケーション	クレントン ジョン	数理情報科学	稲垣 知宏	越境文化	小池 聖一
言語コミュニケーション	山根 典子	数理情報科学	飯間 信	越境文化	辻 学
人間行動科学	岩永 誠	数理情報科学	澁谷 一博	越境文化	布川 弘
人間行動科学	坂田 桐子	数理情報科学	児玉 明	越境文化	平手 友彦
人間行動科学	坂田 省吾	数理情報科学	河村 尚明	越境文化	城戸 光世
人間行動科学	林 光緒	数理情報科学	岸場 清悟	越境文化	武田 紀子
人間行動科学	有賀 敦紀	数理情報科学	鈴木 俊哉	越境文化	的場いづみ
人間行動科学	小川 景子	数理情報科学	田島 浩一	現代社会システム	市川 浩
人間行動科学	小宮あすか	数理情報科学	長登 康	現代社会システム	材木 和雄
人間行動科学	杉浦 義典	数理情報科学	渡邊 英伸	現代社会システム	横藤田 誠
人間行動科学	吉本 早苗	物性科学	石坂 智	現代社会システム	吉村慎太郎
スポーツ健康科学	関矢 寛史	物性科学	乾 雅祝	現代社会システム	李 東碩
スポーツ健康科学	長谷川 博	物性科学	浴野 稔一	現代社会システム	佐々木 宏
スポーツ健康科学	船瀬 広三	物性科学	荻田 典男	現代社会システム	三村 太郎
スポーツ健康科学	和田 正信	物性科学	戸田 昭彦	現代社会システム	山崎 修嗣
スポーツ健康科学	木庭 康樹	物性科学	畠中 憲之	社会フィールド研究	浅野 敏久
スポーツ健康科学	進矢 正宏	物性科学	東谷 誠二	社会フィールド研究	長坂 格
スポーツ健康科学	田中 亮	物性科学	田口 健	社会フィールド研究	匹田 篤
スポーツ健康科学	緒形ひとみ	物性科学	宗尻 修治	社会フィールド研究	福田 恵
		物性科学	梶原 行夫	社会フィールド研究	松嶋 健
		物性科学	杉本 暁	社会フィールド研究	栗田 梨津子
		物性科学	長谷川 巧		
		自然環境科学	奥田 敏統		
		自然環境科学	小野寺真一		
		自然環境科学	海堀 正博		
		自然環境科学	久我ゆかり		
		自然環境科学	佐久川 弘		
		自然環境科学	中坪 孝之		
		自然環境科学	和崎 淳		
		自然環境科学	小澤 久		
		自然環境科学	竹田 一彦		
		自然環境科学	土谷 彰男		
		自然環境科学	並木 敦子		
		自然環境科学	横山 正		
		自然環境科学	戸田 求		
		自然環境科学	勝山 千恵		
		自然環境科学	中川 直樹		
		自然環境科学	児子 修司		
		自然環境科学	布目 陽子		
		自然環境科学	平山 恭之		